

# 会報

第12号 (2013/1/10)

広島県福山市中之町4-3-14  
Tel&fax: 084-917-5937  
e-mail: info@comirune.com



Community Assistance Research Center



**2013年 年頭にあたって**  
**代表理事 安川悦子**  
**2013年のお正月、あたらしい希望の年、おめでとうございます。**

東日本大震災からまもなく2年になろうというのに、フクシマの原発事故がからんでいて、なかなか希望の光がみえてきません。こんな時にあたらしい希望でもないのではないかと、思っていたときに、元旦の新聞で、脚本家の倉本聰さんの言葉をみつけました。人は挫折したり、大変な目にあつたときこそ、それを土台にして「希望」や「夢」をもつものだ。 「希望」は挫折を土台にしなければ生まれにくいとも。

そしてまた倉本聰さんは、いいます。人が生きていくのに必要な生活必需品は、水やナイフや火、そして食料に加えて「人」なのだ。人は自分一人では生きていけないのだから。確かに、絶海の孤島にたどりついて一人で生きていくためのさまざまな工夫をしたあの有名な「ロビンソン・クルーソー」にも相棒のフライデーという人間が物語の途中から現れます。「人」は

生活必需品なのだ、この物語の作者ダニエル・デフォーも考えていたようです。

コミュニティルネッサンス研究所がNPO法人を創立してもう3年がすぎました。このNPOの理念は、倉本聰さんの言葉をかりれば、「希望」や「夢」をつむぎだすことであり、生活必需品としての「人」のつながりを創り出すことであるといえます。

震災や原発を経験したいま、倉本聰さんがいうように、「希望」は「足るをすること」だとすれば、それはどのようなものなのか、考えてみる必要がありますし、「人」が生活必需品だとすれば、どのようにしてたくさんの「人」とつながることができるのか。

「地域の絆」のご好意もあつてコミュニティルネッサンス研究所には、「人」があつまる場所があります。ここにみんなで集まって議論をして新しい「希望」や「夢」をつむぎだし、生活必需品としての「人のつながり」を創りだしていきたいと思います。

## 建築物耐震診断等評価委員会がスタート

今年度の総会で実施の方向が確認された建築物耐震診断等評価委員会が、いよいよ10月末からスタートしました。

これから、新しい視点も加味した、高齢者の安心・安全な生活を保障する「自立と支え合い」のまちづくりに努力していきます。

## 都市農業を考える連続講座『第4回目 水と農業』



〜広島県は日本農業の縮図か〜

元広島県農協中央会専務理事、食肉市場株式会社取締役相談役 黒木義昭さん

12月15日午後2時から『都市農業を考える連続講座』の第4回目を開きました。テーマは「水と農業」 広島県は日本農業の縮図か、講師は元広島県農協中央会専務理事、食肉市場株式会社取締役相談役の黒木義昭さん。黒木さんは神石高原町のご出身で、経済連に23年間お勤めでした。その間「親孝行農業」と称して神石まで農業をやりこめていたそうです。食料生産と水との関わりをお話いただきましたが、聞けば聞くほど怖く、今現実をしっかりと見ることが必要だな、と感じました。90分間多岐にわたるお話を頂いたあと、お菓子などをつまみながら交流をしました。参加者は学生さんを含めて10人。参加者からは「こんなに水のことをきちんと聞いたのは始めて」「これまで知らない世界で新鮮であった。面白かった、と言うだけでなく自分なりに出来ることを探したい」などの声がありました。

ここでは「農業」食料と水」についてのお話の概略をご紹介します。

「水は人類にとって無限か？」

1. 水は人類にとって無限か？

地球上の生命が誕生して約40億年、人類の登場は10万年前で、水なしには考えられない。

地球は水の惑星とも云われる。地上にある14億km<sup>3</sup>のうち97.5%は海水で2.5%が淡水だが、農業等に利用できる水はわずか0.01%に過ぎない。

20世紀は農耕から急速に工業化が進んだが、「水不足・水質汚染」問題を引き起こした。これらの水は太陽エネルギーにより循環しているが、循環に変動が生じると人間社会に破壊的影響を与える「大干ばつ」や「大水害」が発生。これは食糧危機につながる。

2. 食料生産から見ると「地球は有限」  
食料生産に必要なものうち、太陽の光と二酸化炭素は無限だが、水と農地の拡大は有限である。

3. 水不足・水汚染への警告  
・2002年国連アナン事務総長「2025年までに、世界の人口のほぼ半分の35億人が水不足に直面する」

・世界銀行総裁「今世紀の戦争が石油をめぐる戦われたものであったとするなら、21世紀の戦争は水をめぐって戦われることになる」  
Exp. ・メコン川は中国雲南、ベトナム、ラオス等を通るが、中国にダムを造ろうとしている

・チグリスユーフラティス川ではトルコ側にダムを造ったためにユーフラティス側では5cm水位が低下

・ナイル川流域のスーダンがダムを造ろうとしたことで、エジプトが軍隊を出そうとしたことがあった。

・WHO:工業廃水等で12億人が清潔な水が利用できず、発展途上国では非衛生な水に関連する病気で8秒に1人の子どもの死亡

4. 日本は多量な水の輸入国  
・日本は琵琶湖の2.3個分の水を輸入⇒大量の食料の輸入⇒水資源も輸入

農産物の生産に必要な水をバーチャルウォーター(仮想水)という(ロンドン大学 トニー・アラン教授提唱)

・主な輸入農産物を日本で生産した場合に必要な仮想水は627億m<sup>3</sup> (2000年)  
・国内の農業用水使用料は552億m<sup>3</sup> (2004年)

**農産物1トンの生産に必要な水の量**

米	3,600 <sup>トン</sup>
麦	2,000 <sup>トン</sup>
豆	2,500 <sup>トン</sup>
トウモロコシ	1,900 <sup>トン</sup>
鶏肉	4,500 <sup>トン</sup>

5. 日本の食料を支える他国の水

現在行われている農業には、天水農業と地下水農業がある。

日本が輸入農産物の多くを依存するアメリカの状況

・アメリカの大穀倉地帯を形成しているのは、アメリカ中央部の大砂漠地帯。その農業を支えているのがオガララ水系という地下水帯

**食べ物に必要な仮想水の料(一人分)**

メニュー	仮想水(80以上の風呂桶に換算した杯数)	輸入仮想水(食材に占める輸入割合から算出)
牛丼(並)	1,887 <sup>杯</sup> (10.5杯)	68%
カレーライス	1,092 <sup>杯</sup> (6.1杯)	69%
アイスクリーム	392 <sup>杯</sup> (2.2杯)	79%
オレンジジュース(200ml)	168 <sup>杯</sup> (0.9杯)	89%

(数万〜数十万年を要して溜まった、4兆トンを超えると云われる)。この地下水帯を利用したスプリングラー農業が行われており、500億トンの地下水をくみ上げれば80年で枯渇すると云われている。

すでに南部の州の一部では井戸が涸れ、塩害による農地の荒廃が始まっている。

・インドでも地下水をくみ上げた農業を行っているが、ニューデリー等では川に水がなく真っ白。

・中国黒竜江省でも地下水で農業。中国でも毎年神奈川県と同じ面積が砂漠化。

6. 水不足による食料生産の限界も多発する大干ばつ

・ 2007～2008年：オーストラリアで百年に一度と云われる大干ばつ。ウクライナ・カナダの大干ばつ。欧州・アメリカ・東南アジアの局地的な洪水と干ばつ。

・ 2010年：ロシアの大干ばつ。ウクライナの干ばつ

：チェニジア、エジプト中東では対応に苦慮し、政変(アラブの春)の引き金になる。

・ 2012年：アメリカで半世紀ぶりの大干ばつ、ロシア・ウクライナで干ばつ

：トウモロコシ、大豆等世界の穀物価格が急騰

□ 農業と食料とは何かを改めて考えてみよう

1. 食糧問題を考える視点

食糧問題を考える視点には、①世界の「人口問題」、②食料の「生産力」、③食料の「配分問題」がある。

1997年ローマで開かれた「世界食料サミット」では「8億4,000万人の飢餓人口を2015年までに4億2,000万人に半減する」ことを掲げたが、現実には飢餓人口とのギャップは拡大。

2. 収穫面積と従来の農業技術の効果が限界に

- ・ 一人あたりの穀物収穫面積は1961年には21.0畝であったものが、2005年には10.4畝と半減。

- ・ 1961年～1980年にかけて穀物生産は2倍近く伸びたが、それは①灌漑面積の拡大、②肥料・農薬の投入増、③品質改良の農業技術がもたらした。しかし、灌漑により塩分を持った水があがってきて農業が出来なくなったり、肥料投入も限界に来ており、2000年からは増収も鈍化してきている。

・ 水田は連作が可能な理由：水田では窒素が多くてもアンモニアとして蒸散するが、畑では6～7割の窒素は残る。これが地下水に入り硝酸塩に、さらにこれが体内に入ると亜硝酸塩になって血液循環病を起こすとの指摘もされはじめています。

3. 世界の食糧配分は

- ・ 20%の人が世界の富の80%を独占。一日2ドル以下で暮らす人は約28億人(世界人口の42%)。

・ 開発途上国は経済の発展にともない肉を食べたがるようになり、穀物需要量が急増する。先進国は世界の穀物生産量の半分を消費。そのうちの7割は家畜の飼料。

気軽に集って楽しみたい

重謡を楽しむ会



第3回を11月21日にお手玉作りをし、第4回は12月19日にクリスマス会を行いました。3回目はあらかじめ準備していた布を縫い、中にペレットを入れてできあがり。地域の絆の方はさすがに縫い物のベテラン。針の持ち方、布の持ち方などお上手でした。

クリスマス会は会員持ちよりのクリスマス

ツリーを飾り、参加者にお菓子の飾り付けをしていただきました。途中からは三好副代表の扮するサンタクロースから一人ひとりにプレゼントを。ばたばたして、サンタさんの写真を撮り忘れませんでした。残念！

参加者は第3回は大人14人、子どもさん6人、第4回は大人7人、子どもさん1人でした。

食生活から生活習慣病を考える



あいにく雨の降る天気で参加者は6人でしたが、小林さんが焼いてきて下さったシフォンケーキをいただきながら、食事のチェックリストやジュースの砂糖量を示したサンプルを使ったお話を寶諸さんから聞きました。

生活習慣病を防ぐ食生活の留意点として、次のような点に注意すること。

1. ○○がよい、△△がよいとテレビが云った、と情報に左右された食生活を送っている人が多いが、全ての食べ物それぞれ良い点を持ち、その良い点は違うのでそればかりというのは良くない。

2. 65歳以上になると基礎代謝量が減るので糖尿病になりやすい。アメリカが開発したものを寶諸さんが手を加えられた「食事のチェックリスト」を使い、具体的な食生活についてのお話。信号になぞらえて、たくさん食べられるものを緑信号、量に注意が必要なものを黄信号、控えめに食べた方がよいものを赤信号で。緑信号に含まれるのは野菜・海藻類、低脂肪牛乳、

カッターチーズ、豆腐、ササミ、牛肉・豚肉の赤身、かゆ、里芋など。黄信号にはほとんどの植物油、乳・乳製品、魚介類、カボチャ・レンコン・煮豆、穀類・芋類、果物など。赤信号には牛肉・豚肉の脂身、種実類、清涼飲料水、スナック菓子、マーガリン、霜降り肉、ウナギ、トロ、たらこ・いくら、クロワッサン、インスタントラーメンなど。

次回はこの表をもとにして自分自身の食生活を見直してみたいですね。

### そば打ち道場



今年も当会理事の平田さんを講師に「そば打ち道場」を行いました。参加者は19人でしたが、ほとんどの皆さんはそば打ちを見学して「食べる人」。一から習ってそば打ちをした人はお一人、切ったり捏ねたりをした人が数人。午後にはそば粉の産地による味の違いも楽しみました。平田さんお疲れ様でした。

地域の絆から来て下さった方の中には「来年は打ってみたい」という方も。来年に期待しています。

### 地域の絆」の行事に参加



地域の絆では11月18日に「仁伍音楽祭」が、12月15日には「餅つき大会」が行われました。

当NPO法人も、仁伍音楽祭では柏餅の販売と「リサイクルバザー」を、餅つき大会では「リサイクルバザー」の出店をして参加しました。田中さん、江藤さんがリサイクルバザーの企画をして下さり、会員の皆様からのご協力で合計16,800円の売り上げがありました。当日の売り子には数名の方が参加して下さいました。ご苦労様でした。



### 編集後記



明けておめでとうございませう。本年もどうぞ宜しくお願いします。

皆さんにとって昨年はどうな一年だったでしょうか？

NPOでは、昨年10月末に耐震診断が始まり、

私は慣れない書類作成が続いて、年末までなぜかとてもバタバタしていました(笑)

今年は、少しずつ慣れてちよつとは余裕をもつてやっていけるといいな、と思っています。

では、今年も皆さんにとって素敵で一年になりますように：(羽)

### 1月の行事予定

・1月23日(水) 10時～11時30分 ルネッサンス研究書集会室

第5回 童謡を楽しむ会

講師は元幼稚園教諭、現福山市立大学講師の今川美代子さんと江藤朝子さん

・1月26日(土) 14時～16時 ルネッサンス研究書集会室

『都市農業を考える連続講座』

第5回 都市農業とアーバンデザイン  
講師：福山市立大学副学長 奥山さん

・1月27日(日) 10時～12時 コミュニティルネッサンス研究所集会室

高齢者神話の打破 くぼーパワー、ベティ・フリーダンをめぐって

講師：元福山市立女子短期大学学長、当NPO代表理事 安川悦子さん